

京都市環境影響評価審査会 大気・地球環境小委員会

【 摘 録 】

日 時：平成27年4月9日 9：30～11：30

場 所：職員会館かもがわ 第5会議室

出席者

委 員：①池田有光委員，②岩嶋樹也委員，③大西有三委員，④笠原三紀夫委員  
⑤勝見武委員，⑥武田信生委員，⑦増田啓子委員

議 題：奈良線第2期複線化事業に係る準備書についての審査

- 議 事
- 1 開会
  - 2 議事 以下のとおり
  - 3 閉会

－ 摘 録 －

事 務 局 審議に入る前に，小委員会の取りまとめ役について，池田会長から御指名いただきたい。

池 田 会 長 笠原委員に取りまとめをお願いしたい。

笠 原 委 員 承知した。

事 務 局 以降の議事進行は，笠原委員をお願いしたい。

笠原部会長 承知した。それでは，議事に移る。奈良線第2期複線化事業についての審査を行う。西日本旅客鉄道株式会社（以下「事業者」という。）には，準備書についての説明をお願いする。

事 業 者 < 事業概要及び準備書について説明 >

笠原部会長 ただいまの説明に対して御質問等があれば御発言願う。

岩 嶋 委 員 工事中の稼働時間について，原則9～17時及び1～4時とあるが，日中と深夜の割合は決まっているのか。

事 業 者 具体的な割合は決まっていないが，現在の列車の運行に影響の出る工事については，1～4時に，列車の運行に影響のないものは，9～17時に実施する予定である。

岩 嶋 委 員 降下ばいじん量の予測については，風向や風速が予測値に大きく影響するため，1日の中でも昼夜で差が出ると考えられるが，年間平均値を基に予測しても良いものなのか。

事 業 者 準備書 P7-1-30 の予測結果に示すとおり，四季ごとに予測を行っている。昼夜の区別はしていない。

- 岩 嶋 委 員 昼夜の差が、四季による差よりも小さいことを示されたい。
- 大 西 委 員 降下ばいじんの計算過程において、「建設機械の稼働により生じる粉じん等（降下ばいじん）」と記載されているが、土の搬出入による影響も含め計算されているのか。
- 事 業 者 重機そのもの及び掘削により発生する粉じんを入れた係数で計算している。搬出入については、施工ヤード内での粉じんは含めているが、一般道に出てからのものは含めていない。
- 増 田 委 員 騒音・振動の予測について、準備書では、防音壁の設置によりどの程度影響の低減が図られるのかについて記載されており、その計算過程で最大騒音レベル  $L_{Amax}$  が出てくるが、本編にはその値が示されておらず、資料編に掲載されているのみである。周辺住民が気にするのは、 $L_{Aeq}$  よりも、 $L_{Amax}$  であると考えられるので、 $L_{Amax}$  についても評価するなど、記載を工夫されたい。
- 事 業 者 環境影響評価上の評価については、等価騒音レベル  $L_{Aeq}$  を使用する方法が確立されているため、そのとおりに実施している。 $L_{Amax}$  については、資料編に記載している。
- 増 田 委 員 騒音・振動に対する環境保全措置である防音壁の設置は、景観にも影響を与えることから、周辺住民と十分協議のうえ、設置個所を検討されたい。
- 事 業 者 防音壁については、地域住民への説明会で説明し、御理解いただきながら決める予定である。
- 増 田 委 員 騒音・振動の影響のあるような近隣住民は防音壁を必要とされるが、路線から離れた住民は景観面への影響を懸念すると思われる。
- 事 業 者 そういった住民の意見も拾う必要があると考えている。
- 笠原部会長 降下ばいじんの単位は（ $t/km^2/月$ ）であるが、予測地点における最大値を予測しているのであって、予測地点よりも離れば、その値は減衰していくと考えてよいのか。  
また、P2-17 を見ると、それぞれの地点における工事期間が1年半等、長期間続くようだが、予測値ほどの影響のある工事は、どの程度続くのか。
- 事 業 者 予測値については、工事期間中の最大値で予測・評価している。  
工事の詳細な施工時期については、工事前に開催する説明会で説明予定である。
- 池 田 委 員 工事で撤去予定のマクラギの材質は何か。
- 事 業 者 コンクリートである。
- 勝 見 委 員 P7-7-2 の廃棄物について、「建設発生土は再利用に努める」とあるが、切土と盛土の間でうまくやりくりするのか。  
また、工事の施工に際しては、委託することになると思うが、準備書に記載されているような環境保全措置の技術について、技術提案に基づいて施工業者を決めるなどの仕組みはあるのか。
- 事 業 者 P7-7-1 に記載している建設発生土は、環境保全措置を講じなかった場合の最大量である。実際には、工事のタイミングを工夫し、切土と盛土間の融通に努める。  
施工会社の決定に際して、複数の施工会社からの提案を総合的に評価して決定するという方法を取っている。評価項目については、これから定めるので、その中

に、環境保全の要素を入れることも可能である。

笠原部会長 それぞれの環境要素について環境保全措置が示されているが、それが確実に担保されることが重要である。慎重に施工会社を選定されたい。

P7-8-1に、「工事以外の事業に伴う温室効果ガスの削減に向けた環境保全措置として、「駅舎などへの高効率照明器具の積極的な導入」及び「列車の省エネ運転の徹底」を検討する。」とあるが、本来は、これらの環境保全措置が既になされているべきではないか。検討するというのではなく、どういう配慮をするのかについて具体的に記載されたい。

事業者 現在実施しているものについては、P2-31に記載している。

増田委員 準備書の審査とは離れるが、今後、駅舎などへの高効率照明器具の積極的な導入などを行った際は、どの程度のエネルギーが削減されたのかを数値化していくと良いのではないか。

勝見委員 騒音の調査地点 No.20 の測定場所について、マンションの1・2・4階を選定されているが、なぜ、一番遠い7階は選定しなかったのか。

事業者 マンションと相談のうえ、結果として御協力いただけたのが、1・2・4階であったためである。しかし、計算上は、4階のデータがあれば、距離減衰で7階までの評価が可能であり、防音壁及び吸音材の設置については、7階であっても現状よりも改善できることを目標に予定している。

池田委員 複雑な地形等の理由で、環境影響評価で想定していた範囲に留まらない影響が発生する可能性も考えられるため、窓口を作り対応するといった配慮をされたい。

事業者 環境影響評価上は、局所的な予測が難しいところもあるため、想定外の事態に対して適切な対応を、施工会社と共に心掛けていく。

笠原部会長 事後調査の実施を予定されているが、工事期間中の調査は含まれるのか。工事に伴う予測を行っているのだから、その結果を確認しながら進めていく必要があるのではないか。

事業者 今、全て参考値(10t/km<sup>2</sup>/月)を下回る予測結果が得られているため、工事期間中の調査は予定していない。準備書に示す事後調査は、供用後の調査のことである。

笠原部会長 他に御意見はないか。ないようなので、事業者の皆様には退室いただく。

#### < 事業者退席 >

笠原部会長 それでは、まだ少し時間があるので、事務局への質問や、準備書に対する御意見等あれば、御発言願う。

事後調査で供用後の騒音・振動などについて測定するのは当然であると考えているが、7年間という長期に渡る工事であることから、工事中にも調査を行い、環境影響評価の結果が反映されているのか確かめる必要があると考える。

岩嶋委員 工事中のモニタリングは、今後同様の事業が想定された場合の参考にできるという点において、事業者にもメリットがあるのではないか。環境影響評価上、工事中の事後調査をしないのであれば、モニタリングを行い配慮する旨を記載すべきではないか。

- 笠原部会長 第 10 章の総合評価に、「環境保全措置の実施により、予測結果はさらに低減され  
ると考えられるため、環境保全措置の実施により、事業者の実行可能な範囲で低  
減が図られていると評価する。」とあるが、この予測を確認する意味でも、工事中  
の調査は必要ではないか。  
工事中も含め、事後調査を実施するよう求める必要がある。
- 大気質の予測・評価の方法については、降下ばいじん量よりも、SPM 濃度での評価  
の方がよいのでは。
- 池 田 委 員 準備書では、降下ばいじん量を予測しているが、工事中の事後調査として、濃度  
の測定を求めるのはどうか。
- 池 田 委 員 確かに、方法書審査の際は、「粉じん等」という記載であったため、環境基準で定  
められている浮遊粒子状物質（SPM）も含めたものであると認識していた。
- 笠原部会長 SPM による工事中のモニタリングも求めていくよう、意見として反映されたい。
- 増 田 委 員 工事中の仮囲いや散水による環境保全措置について P7-1-31 に記載されているが、  
これらの環境保全措置は、工事対象の全区間で行われるのか、それともある条件  
下でのみ実施するのか不明確であるので、より具体的に示されるべきだ。
- また、 $L_{Amax}$  について、環境保全措置によりどの程度影響が低減されるのか、予測  
されたい。住民に、現状の  $L_{Amax}$  よりも下げられるということを示せればなおよい。  
また、 $L_{Amax}$  の値を本編に記載しないのであれば、資料編に記載されている旨を準  
備書に示されたい。
- 笠原部会長 その点については、是非、16 日の小委員会で、騒音の専門の先生に詳しく御議論  
いただきたい。
- 笠原部会長 他に御意見はないか。ないようなので、本日の審議はこれで終了とする。
- 11 : 30 終了